

下商物語 ④ 新講堂のはなし

教諭 林 俊行

大正時代の終わりに名池山校舎が火災に遭い、当地の千重原校舎に移った時の教職員・生徒・同窓生は一同に「新校舎には講堂も是非とも建設していただきたい」との悲願もむなく予算の都合でその夢が叶わなかった話は以前の「下商物語」で紹介しました。無論、その当時本校には体育館などはありませんから一堂が集う場所として立派な千重原校舎にはぜひとも欲しいものでした。念願の講堂建設を創立五十周年（昭和九年）の記念事業として同窓生の浄財を中心として建設し、竣工したのが昭和十年（ひとひ日照りの関係で工期が延びた為翌年に完成）でした。その講堂も外壁劣化・構造体の経年劣化が顕著で耐震基準も満たされないなどの理由から平成二十三年の夏から解体工事が始まり、平成二十五年の春に竣工予定で工事が進んできました。古い講堂は何と

言っても七十六年間もの水きに亘って下商のシンボルとして当時の生徒達を見守っていたのですから、解体工事が始まり内部から外部へと解体される場面を見るにつけ懐かしい思い出の数々が私の脳裏にも浮かんできました。解体工事現場の方にも伺ったのですが、「基礎工事がしっかりしていてもなかなか素晴らしい建物で改めて歴史を感じました。意外なことに屋根の部分は二重構造（途中で雨漏りが酷くなり改修工事のためか）でした。」このことを伺って真夏の二階フロアが異常に暑かった理由も納得がきました。

ところで、今度新しく建設された講堂の機能（現在の機能を継承し新たに多目的に利用できる設備を配備し）宿泊型研修・交流施設にも注目が集まり、今年の二月二日に関係者によって校章掲式式が執り行われ、二月下旬に最終検査を受け、三月には全国の卒業生を呼び、三月には全国の卒業生を中心として（約三千五百万円）の寄附行為によって集められた浄財を基にして購入された備品類が納品されて、四月九日の竣工式の運びとなりました。

鉄筋コンクリート（一部鉄骨）造りの四階建て、床面積は、二七六一・〇三㎡。建築面積は、九三七・一一㎡。一階には、食堂・サロン、厨房・返却室、購買部、コミュニケーションルーム、吹奏楽部室、トイレ。二階には、研修室（二部）、屋で間仕切り、和室（二部）、トイレ、シャワールーム。三階には、多目的ホール（パドミントンコート三面）、講師控室、倉庫。四階には、通路（メンテナンス用）といった充実した設備が完備されています。

本校は、管理棟・特別教室棟・体育館・図書館・商業科棟として講堂と教育施設の間でも非常に充実した学校となり、来年の来ある創立百三十周年を迎えようとしています。

参考までに、平成六年の創立百十周年の時に現在の図書館が完成したのですが、その際に当時の同窓会理事長であった伊村光氏（当時山口銀行頭取）が祝辞の中で

「金（の鳥籠）を市当局とともに作らせていただきました。どうぞ生徒の皆さんは金の鳥籠に入るように育んでください。」と熱く語っておられました。

このたびの講堂も市当局を始め同窓生や旧教職員などの関係者の方々の熱い思いをもとに立派な本校のシンボルとして完成されたことに改めて感謝したいと思います。これから末永く本校を見守っていただくことだと思います。

現在、経済のグローバル化、IT革命、少子高齢化の進行など急激な社会の変化の中で、下関市教育委員会では、「生命きらめき未来を拓く、下関の教育」という基本理念の下、「社会の発展に貢献する人材を育成する」「専門的な職業教育の推進」において、下商教育に多大なる期待をしているところです。

こうした中、昭和十年に建設された長い間、下商のシンボルであった旧講堂が、解体され、新講堂として生まれ変わりました。旧講堂は、建設当時としては、鉄筋コンクリート2階建て（一部3階建て）で、2階のホールは165坪の広さと豪華ステイジからなり壁や天井は音響効果を考慮してテックスが張られ、照明用の大シャンデリアが数連取り付けられ、当時関西第一との評価を得た大講堂として愛され続けられましたが、約

80年の経年に伴い外壁の劣化、耐震性の問題等からリニューアルされたものです。

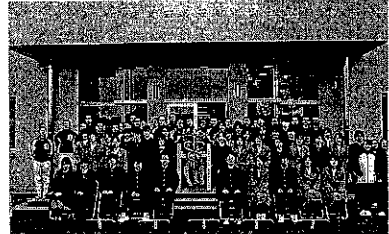
新講堂は、平成23、24年度に解体、建築されました。鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 4階建て 建築面積937、11㎡ 建築事業費 約8億円で1階に、コミュニケーションルーム、吹奏楽部室、食堂・サロン、購買部があり、2階には宿泊機能を備えた和室、研修室、教官室、シャワールームがあり、3階は、パドミントンコートが3面張れる多目的室があり、4階は、メンテナンス用通路となっています。

椅子、放送機材などの充実した備品は、下商新講堂推進委員会の方々が、ご寄付を募られ、市にご寄贈いただいたものでこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。共に、生徒の皆さんにもお知らせしておきたいと思っております。

竣工式に先立ち、2月2日には、講堂に掲げる、縦横約1メートルのプロンズ鑄造製の校章（ヘルメスの杖に由来する）が設置されました。また、4月9日には、中尾市長、関谷議長、山本新講堂推進委員会会長、波佐間教育長出席の下、竣工式が挙行され、講堂見学が行われました。また、5月3日には、鹿児島商業高等学校、宮崎商業高等学校との講堂竣工記念招待試合が行われ、早速、講堂の2階の宿泊機能設備をご利用いただき各校の友好、親睦が深まったものと思っております。

今後、さらに講堂が、部活動、生徒会活動、他校との交流さらには地域交流の場となり、新しい下商のシンボルとして、また青春の舞台となることを期待しています。

終わりに、同窓会やPTAを始めとする学校関係者の方々のご援助に感謝申し上げます。立派な歴史ある学校に発展していくことを念じています。



校章掲式 校章を囲む参加の生徒

